

中耕・培土で雑草対策の徹底と食葉性害虫に注意を！

1 生育概況（6月末現在）

- 本年の播種作業は、6月に入り降水量が少なかったため順調に進み、播種盛期は6月16日（平年差早2日）となりました。
- 気温が高めに推移しているため、6月末現在の生育（6地点平均）は、平年に比べ主茎長は短く、葉数は多くなっています。
- 乾燥による出芽不良や遅れのため出芽ムラがみられますが、出芽本数は12.9本/m²（平年比99%）と概ね良好となっています。

表1 6月末の調査結果（R6：6地点）

| | 主茎長 (cm) | 葉数 (葉) |
|-----|----------|--------|
| R 6 | 6. 7 | 1. 3 |
| R 5 | 9. 8 | 1. 7 |
| 平 年 | 7. 3 | 0. 5 |
| 平年比 | 9 2 % | + 0. 8 |

※平年は、直近7か年の単収のうち最高・最低を除く5か年平均。

2 中耕・培土

中耕・培土は雑草防除や湿害回避、倒伏抑制などの効果があり、大豆の生育向上を図る上で重要な作業です。図1を参考に適期作業を行い、生育量の確保に努めてください。ディスク式の培土機は土をこねないため、降雨後早く培土に取りかかれます。

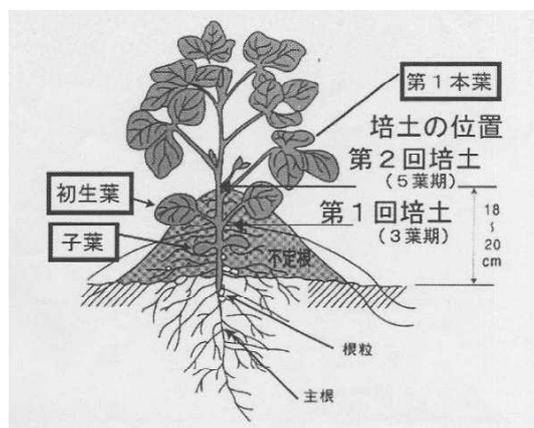


図1 中耕・培土の模式図

(1) 中耕

土壌処理除草剤の効果が切れ、初期雑草の発生が見えたら、本葉第1葉が展開した頃に行います。子葉が隠れない程度に株元に土を飛ばします。

(2) 培土【1回目】

本葉第2～3葉が展開した頃、初生葉が隠れない程度に行います。

(3) 培土【2回目】

本葉第6～7葉が展開した頃、本葉第1葉が隠れない程度に行います。

3 除草対策

当面の雑草防除は中耕・培土により行いますが、中耕・培土で雑草を抑えられなかった場合などは、大豆生育期処理除草剤を使用します。除草剤の種類により使用可能な時期が異なるので、使用基準に注意してください。

| 対象雑草 | 農薬名 | 使用時期及び使用薬量 (mL/10 a) | 希釈水量 (L/10 a) |
|-----------|--------------------------|---|---------------|
| イネ科 雑草 | ナブ乳剤 | ノビエ 3～5葉期 (150～200) | 100～150 |
| | ワンサイドP乳剤 | " 3～5葉期 (75～100) | 70～100 |
| | ポルトフロアブル | " 3～8葉期 (200～300) | 100 |
| 広葉 雑草 | 大豆バサグラン液剤※ ¹ | だいたいの2～6葉期 (100～150) [雑草の生育初期～6葉期、草丈45 cm] | 100 |
| | アタックショット乳剤※ ² | だいたいの4～6葉期 (30) | 100 |

※1：適用品種はリュウホウとする。ツユクサやエノキグサ、アカザ等には効果が劣るため発生草種に注意する。また、大型化したタデ類には除草効果が劣る。

※2：気象条件等により薬害を生じる恐れがあるため、使用上の注意をよく確認する。

4 排水対策

- これから本格的な梅雨の時期に入ります。近年では、短時間に大雨となる気象災害が多くなっています。湿害を回避するため、降雨後に停滞水が速やかに排出されるように、排水溝同士をつないだり、水尻を深く掘り下げる、明きょを補修するなどの対策をとってください。枕地の畝が排水を妨げるような場合は、畝切りを行い排水路を確保してください。
- 排水後は中耕・培土や雑草対策を行い雑草害の回避に努めてください。

5 病害虫対策

ほ場をよく観察してください！

- 6月末の調査では、生育が進んでいるほ場で、害虫による食害痕がみられました。また、令和6年6月25日発表の農作物病害虫発生予察情報では、食葉性鱗翅目幼虫(ツメクサガ等)の発生は多いと予想されています。ウコンノメイガは、発生時期、発生量ともに平年並と予想されていますが、急激に発生量が増加する場合もあることから葉巻の状況をよく観察してください。
- 気温が高い場合、害虫の発生が増加する傾向にあります。仙台管区気象台発表の1か月予報(6月27日発表)によると、東北地方日本海側では気温が高いと予想されています。今後の病害虫の発生状況に注意し、ほ場をよく観察してください。

(1) ツメクサガ

- 第1世代幼虫は6～7月に発生し、葉脈を残して葉を食害します。第2世代幼虫は8月に発生し、葉及び莢も食害し収量が低下します。
- 老齢期になると防除効果が劣るため、幼虫の発生初期(若齢期)に散布をします。

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 散布量 | 使用時期 |
|-------------|--------|---------|------------|
| エルサン乳剤 | 1,000倍 | 100～300 | 6月中旬～7月中旬、 |
| トレボン乳剤 | 〃 | L/10 a | 8月上旬～中旬 |
| フェニックスフロアブル | 4,000倍 | | |



ツメクサガ幼虫(6/28確認)

(2) ウコンノメイガ

- 成虫は主に長距離移動により飛来・侵入します。幼虫は葉縁を巻き込み、その中で葉を食害し、また次の葉に移ります。老熟した幼虫は巻いた葉の中でう化します。
- 被害は7月中旬以降に発生しますが、7月6半旬にほ場全体で40～60茎の葉巻数を調査し、1茎当たり葉巻数が1.3個以上あると減収するため、防除を行ってください。

| 薬剤名 | 希釈倍数・ 10 aあたり散布量 | 使用時期 |
|-------------|---------------------|-----------|
| スミチオン乳剤 | 1,000倍 | 7月下旬～8月上旬 |
| トレボン乳剤 | 〃 | |
| カスケード乳剤 | 4,000倍 | |
| プレバソンフロアブル5 | 〃 | |



ウコンノメイガ幼虫



葉巻きの様子

農作業中に熱中症になる人が増えています。予防対策を十分に行い、熱中症を防ぎましょう。

* 内容についてのお問い合わせは、農業振興普及課 (Tel 0186-62-1835) へご連絡ください。